

産学連携で技術者育成

民間から寄付受け来春講座開く

有明高専 地域や業界へ貢献

大牟田市東萩尾町の有明工業高等専門学校（高橋 薫校長）は、人工知能活用技術者を育てるための寄付講座を開設すると発表した。佐賀市卸本町に本社のある木村情報技術株式会社（木村隆夫代表取締役）から寄付を受け、来年4月に開講。産学連携で地域社会や産業界に貢献したい考えた。

講座名は「人工知能・ビジネス講座（木村情報技術）」。当面は専攻科生産情報システム工学専攻の学生向けに、2年実施する。

人工知能活用技術者育成が急務だと、AIやIoTを理解、活用できる人材を社会へ送り出すのを目指している。

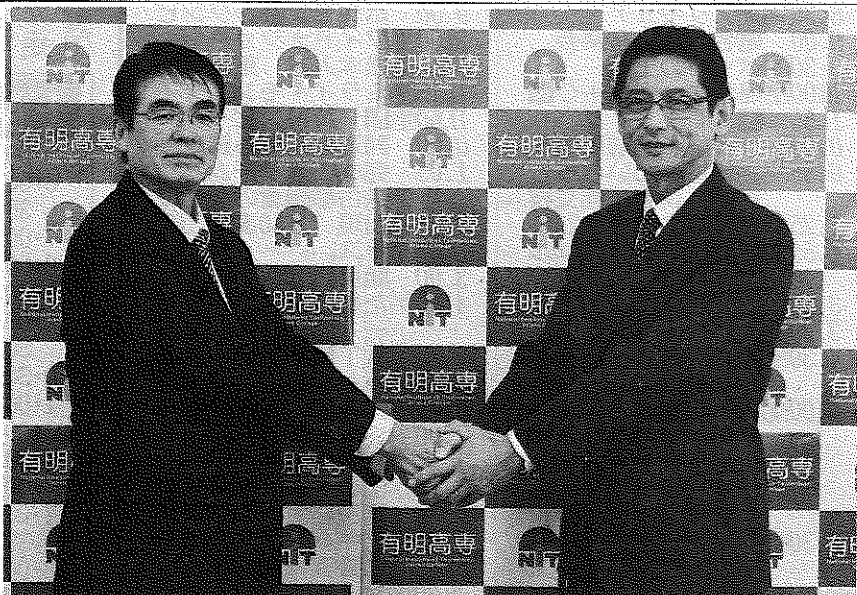
学生への知識や技術の教育、指導と併せ、技術者育成のための教育手法検討も行う。

講座実施に当たり、十分な実績を持つ専門家やビジネス経験者確保のため、客員教授、特命助教、事務補

佐員の3人からなる体制を整備。学内にも教授らによるAI・IoT推進グループを設置する。

この日は高橋校長が「講座開設は学生、教職員だけでなく地元住民にもうれしいニュース。優れた技術者を送り出したい」とあいさつ。木村代表取締役も「有明高専卒業生は一流の技術者を持っている。研究開発などで連携し、人材育成

できた」と思いを述べた。寄付講座は外部から贈られた資金や人材を活用し、



技術者育成へ連携を確認する高橋校長と木村社長（左から）

教育や研究をする活動。国立高専での開設は有明高専が5番目。

（高本 明）